

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 5 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570708297
法人名	伊藤建友株式会社
事業所名	グループホーム湯沢 四季の里
所在地	秋田県湯沢市西新町9-7 (電話) 0183-72-2735
評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31
訪問調査日	2008年11月21日

【情報提供票より】 (2008年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り 2階建て
	2階建ての ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,600 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (50,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4			
要介護5		要支援2	1		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	雄勝中央病院・佐藤外科胃腸外科医院・守口歯科クリニック
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは湯沢駅から近い市街地に位置し、環境や社会資源を活用した、公園への散歩や買い物、外食など、利用者の希望を聞きながら外出機会確保に努めるよう工夫している。建物は鉄筋コンクリート2階建てで、内部の段差を解消し、手すりやエレベーター設置にて安全に配慮されている一方、階段の昇降などにより、日常生活で身体機能維持が図られるよう配慮している。各居室ごとにドアの色分けをしたり、季節感ある装飾や、利用者の作品を飾るなど家庭的で居心地良く過ごせる空間づくりに工夫されています。また、毎月の避難訓練や、年1回全ての職員が救急救命訓練等で研鑽を重ね、緊急時の対応に努めている。さらには、毎月発行している「四季の里通信」に個別に近況状況を記載して、利用者家族等へ情報提供して信頼関係の構築に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しについて、実態に合わなくなった時点で、随時見直しされ、管理者・計画作成担当者及び全ての職員が情報共有しながら取組まれています。また、管理者以外の職員も他ホームの視察見学やスタッフ交換研修にて情報交換やサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価を行う意義を理解しており、ホーム会議、井戸端会議等を通じて話し合いが行われ、評価を今後のサービスの質の向上に活用しようとする姿勢が感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年間予定にて開催日を決め、2ヶ月に1回実施されている。家族代表(持ち回り)、町内会長、民生委員、市介護保険係の定期参加者の他、各回テーマを決めて開催しており、テーマに沿った参加者も招きながら、忌憚のない意見交換にて活発な取り組みがされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の近況については、毎月発行しているホーム便りにより家族へ報告している。必要に応じて電話や手紙等でも様子を伝えたり、玄関に意見箱を設置して、家族の意向や要望の把握に努めている。また、苦情受付窓口及び担当者は重要事項説明書に明記されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームの行事等案内や広報を地域の方々や公共機関に配布して行事への参加を依頼している。七夕祭りの準備等に近隣からご協力をいただき、交流が図られている。また、地震経験から、町内会等から協力をいただき、月1回の避難訓練を実施している。ホームは鉄筋コンクリート造りであるため、今後は災害時の緊急避難場所としてホーム機能の地域への還元も検討されている。

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がどのような生活を望んでいるかを聞き取り、利用者と職員が理念を語り合いながら、ゆっくり・ゆったり・楽しく・自由に・ありのままに安心して地域の中で生活するとの理念を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念をホーム内に大きく掲示され、毎日の日課として理念を唱和し、共有に努めています。また、理念の実践に向けて、定期会議等においても、運営者、管理者及び職員が具体的な話し合いをしています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内や地域との交流を促進するため、ホーム行事の案内や広報を配布したり、お祭り準備や避難訓練等の折には、町内会や近隣住民からの協力を得ています。また、七夕祭り等の地域行事に参加しながら、地域住民との交流に努めています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を踏まえ、実態に合わなくなった介護計画の見直し、管理者以外の職員の外部研修参加やスタッフ交換研修等の参加など、改善に取り組んでいます。また、自己評価や外部評価を通じて、ホーム会議等で改善に向けた話し合いが行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、毎回テーマを決めて開催されています。利用者やサービスの状況、外部評価結果等の報告も行い、サービス向上に活かせるよう努めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市介護保険班の職員が参加し、会議の都度話し合いを持っている他、各種届出及び申請代行等、行政手続きも日常的に行っています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回「四季の里通信」を送付して、利用者の近況やホームの状況等を伝えられています。金銭管理については、毎月、出納帳と領収証の写しを家族に送付されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情内容についての記録もミーティング等で職員全員に伝わるように工夫されています。また、利用者家族が運営推進会議に必ず参加されており、内容を公表することも視野に入れて、サービスに反映させていく取り組みに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、併設している小規模多機能事業所との間で年1名程度あるが、出勤退勤時等に双方の職員が利用者へ挨拶を行う等、不安や混乱が生じないように配慮されています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場・経験に応じた、段階的な外部研修に参加し、内部での復命報告が行われています。定期的にグループでテーマを決めて、内部職員研修も実施しています。また、資格取得については、会議等を通じて運営者及び管理者からスキルアップを促しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1度、グループホーム協議会の交流研修に参加している他、職員も他グループホームと2日間の交流研修に参加し、他事業所の取り組み等を学んで、サービスの質の向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居希望がある場合には、ホーム内を見学していただき、本人や家族に十分説明し、理解を得た上で利用支援しています。また、サービスの利用開始にあたっては、本人に使い慣れた馴染みの家具等を持ち込んでいただくよう家族へ話しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活史を理解して、得意なこと等を尊重し、利用者に教わることもある等、互いに支え、支えられる日常生活が送れるように努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の聞き取りや、日常の生活の会話の中で、思いや意向を確認し、一人ひとりの思いを遂げることができるよう努めています。	○	入居後の希望や意向を、適宜、ケース記録に明確に記録する等、職員全体で共有できるような取り組みを期待します。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を確認し、管理者、計画作成担当者及び職員の意見等を反映しながらアセスメントを行い、カンファレンスやプチ会議で検討した上で介護計画を作成しています。	○	チームの意見やアイデアを統一し易くするため、書式の簡素化を図り、介護計画に反映できることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の期間に応じた見直しのほか、状態変化に伴う見直しにおいても、本人、家族等と話し合いが行われ、現状に即した新たな介護計画が作成されています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の身体状況や要望に応じて、病院受診や外出ができるよう配慮されています。また、小規模多機能居宅介護事業所と併設しており、看護体制等において連携を取り、柔軟な対応をされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者のかかりつけ医に通院受診できるように支援していますが、緊急時や利用者からの要望に応じて、協力医療機関等での受診も行っています。また、必要に応じて家族の付き添いができるよう働きかけをしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期について、本人や家族並びにかかりつけ医と話し合いをされており、状態に合った対応に努めておられます。	○	現在、重度化や終末期のあり方について、本人や家族並びにかかりつけ医と話し合いされている段階であるが、できる限り速やかに関係者全体の方針の統一を図り、状況変化に対応することについての話し合いを繰り返すことにより、全職員で支援の具体的内容を共有されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉掛けや対応は、個々の尊厳を尊重した対応に努められています。入居時に個人情報の使用について、同意を得ており、記録の保管についても鍵付きの書庫を利用するなど、漏洩防止の管理をされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をするため、利用者の希望を聞きながら、職員の都合に合わせてことなく、マイペースで過ごせるよう支援されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好調査が行われ食事提供されています。準備や片付けも自然に利用者と職員が一緒に行っています。食材は旬の物を取り入れ話題としながら、楽しんで食べられています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	基本的には利用者一人ひとりの入浴日及び時間を設定して支援を行っていますが、要望や体調に応じて、曜日、時間にかかわらず入浴できる体制を整えています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、物干し、茶碗拭き、草取りや毎日の体操、レクリエーションの実施を一人ひとりの生活史や状況に応じて、役割や楽しみごとが継続してできるように、支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気に応じ近くの公園に散歩や買い物、イベントやお祭り見学に行ったりし、できる限り利用者の希望に合わせて外出を支援する機会を設けています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関の横はすぐ公道であり、車の往来も多いため、玄関については、利用者の安全と防犯上の理由から施錠しています。また、施錠することについては、利用者及び家族の同意を得ています。	○	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、事業所全体で日中鍵をかけないで支援工夫していく対応を検討しているため、今後、鍵をかけないケアの取り組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回災害時に備え避難訓練を行っており、町内会や近隣の住民へ協力が得られるような働きかけを行っています。また、運営推進会議に消防署から参加があった際に、災害対策に関する話し合いが持たれています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持った職員が献立を作成されています。食事や水分摂取量については毎食記録され、利用者一人ひとりの状況に応じて、量・バランス・嗜好に考慮した提供が行われています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元会社寮であったスペースを改装している。ホーム内には季節感のある飾り付けをしたり、リビング等共有スペースには暖かみある装飾や木製の家具を置くなど、家庭的な生活空間づくりに工夫配慮されています。音や臭い、光に関しても不快を取り除き、快適な生活となるよう努めています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた馴染みの物を自由に持ち込むことができ、居心地良く過ごせるように工夫されています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。